



# くすのき



学校のシンボル  
くすの木

## 「教育」や「しつけ」は、子どもを信じるところから

校長 菊地 勇

真夏日の日数が記録を更新しているそんな「暑い」夏でしたが、9月下旬まできて、ようやく朝晩が涼しくなり、さすがに秋は訪れようとしてくれているようです。10月30日・31日は、日光への修学旅行も控えています。いろは坂のきれいな紅葉がみられるように、秋の訪れを楽しみに待ちたいと思います。

私は、お盆に実家（埼玉県深谷市）に帰って、母と様々な話をしましたが、特に印象に残った話は、「しつけ」についてです。私が「小学生や中学生のころ、母によく言われていたのは、『他人（ひと）を傷つけない』『他人（ひと）のものを取らない』『他人（ひと）の心を傷つけない』の3つだったよね。」と母に確認をしたら、「そうだったけど、当たり前前のできなくてはいけないから、繰り返し言っていたかもね。」と母はそんな感じでした。私としては、母はすごくこだわっていた、と思っていましたが。

人間は、一人では生きていけません。集団の中で生きるための基本は、この3つに入っているのではないのでしょうか？暴力はいけません・盗んではいけません・人の心を傷つけてはいけません。子どもたちは、今、体験や経験、成功や失敗を繰り返しながら、これらの「当たり前」を自ら身につけていく過程にあるのだと思います。親は、その過程を見守る必要があるのではないのでしょうか。時には、「失敗するとわかっているけど、子どもが決めたことはあえて取り組ませてみる」ことも必要かもしれません。子どもたちが自ら身につけていく過程を温かく見守る親であることは大切だと思います。

教育やしつけは、子どもを信じることから始まります。「信じてもらえている」という体験をすることで、「柔らかい心」が芽生えてくるのではないのでしょうか？人の心も柔らかいクッションのようであれば、いろいろな出来事を受け止めることができます。また、時には様々なことを自分自身で吸収することもできます。また、強い衝撃やショックなことがあっても、ダメージが少なく、跳ね返すことができる心になるのかもしれませんが。固いと衝撃の限界を超えると割れてしまうので。

一休さん（良寛和尚のこと。一休さんって知っていますか？私世代だけかな？）の言葉とされているものを、最後に紹介します。

『俺<sup>が</sup>俺<sup>が</sup>の<我>を捨てて、おかげ<sup>げ</sup>おかげ<sup>げ</sup>の<下>で生きよ』

「自分が」「自分だけが」と独りよがりにならず、他の人の力を借りて、「お陰様で」と感謝しながら成長することの大切さを説いているのだと思います。

子どもを取り巻くすべての人が「親」となればいいのではないのでしょうか。子どもは、よりよい影響を受けながら、学校、保護者、地域そして友だちなど、様々な人たちと豊かな関わり合い（学校教育目標）を通して成長します。結果として、自分の子どもを取り巻く、「友だち」も一緒に育てていくことは、自分の子どもをそだてることにもつながっていくのではないのでしょうか。みんなで育てましょうよ。土合っ子ですから。